

安全・安心な県土づくりを目指して

1. はじめに

本県は、燦々と降り注ぐ太陽と太平洋からの爽やかな潮風、また、雄大な九州山地の山並みを持ち合わせる温暖な地域にあり、まさに「太陽と緑の国」の名にふさわしい気候と自然環境を有しております。

この恵まれた気候や自然環境を活かして、本県では「スポーツランドみやざき」づくりを進めており、春や秋には、プロ野球やJリーグのチームをはじめとするキャンプが行われ、多くの選手や観光客の皆様においでいただいています。

一方、年間日照時間とともに年間降水量も国内で上位にありますことから、台風や豪雨災害に備えた、安全・安心な県土づくりが求められています。

2. 公共事業推進の基本方針

本県では、県民生活の向上や地域の活性化のため、他県に比べて整備が遅れている道路、河川、港湾等の社会基盤の整備が必要であると考えております。このため、地域が社会資本を有効かつ適正に利用した地域づくりを進められるよう、ハード整備とソフト対策を互いに連携させた施策を推進しております。

また、施策の推進にあたっては、県民や地域のニーズを的確に把握しながら、説明責任を果たしつつ事業に取り組むことが求められるとともに、限られた財源を有効に活用するため、選択と集中を図りながら、公共事業の構想・計画段階から維持管理までを通じて、コストと品質の観点から、良質な社会資本の整備・保全に取り組む必要があるものと考えております。

3. 事業推進のための具体的取組

(1) 広域的な道路網の整備

高速道路は、本県の産業振興、企業誘致、雇用の拡大に大きな役割を果たすとともに、地域格差の是正、地方の自立・活性化等に寄与する大変重要な社会基盤であります。また、地震等の非常時には、救急医療や救援物資の搬送路として機能する「命の道」となりますことから、その早期整備は喫緊の課題であります。

本県では現在、国や西日本高速道路株式会社により、東九州自動車道等の整備が進められていますが、未だ多くのミッシングリンク区間を抱えている状況です。

このため、関係機関との連携を密に行うとともに、東九州自動車道用地事務所の設置や埋蔵文化財センターでの調査体制の確保など、効率的に事業が推進されるよう体制づくりに努めております。

また、高速道路の整備にあわせて、インターアクセス道路等の整備や重点港湾細島港等の物流拠点の整備及び結節を図ることで、効率的なネットワーク整備を推進することとしております。

(2) 安全で安心な暮らしの確保

本県は地理的条件と自然条件が相まって、豪雨災害が頻繁に発生する地域であり、特に平成17年の台風14号では、県内全域で9,276戸の浸水被害や145箇所の土砂災害、また、交通断絶による地域の孤立などが発生しました。

このため、浸水被害の軽減のための河川改修や住民の生命・財産を守るための砂防施設等の整備、災害時の孤立化解消のための災害に強い道路ネットワークの構築などのハード整備を進めるとともに、国などの関係機関と連携し、住民の避難支援

宮崎県知事 **河野 俊嗣**



のための河川砂防情報の提供などソフト対策に引き続き取り組むこととしております。

また、平成23年1月には県西部に位置する新燃岳が52年ぶりに爆発的噴火を起こし、周辺市町では降灰による被害が発生しました。

現在、噴火活動は小康状態となっておりますが、火口やその直下には高温の溶岩が留まっていることから、突発的な噴火が発生するおそれがあり、いまだ予断を許さない状況にあります。

このため、県では、適時・的確な防災対応が図られるよう、国や関係市町及び関係機関と連携した監視体制の確立や防災工事などを進めているところであります。

(3) 地震津波対策

本県は日向灘に面し、南北に長い海岸線を有していることから、東南海・南海地震や日向灘沖地震などのプレート境界型地震による甚大な被害の発生が想定されております。

このため、道路、河川、港湾、海岸における地震対策を進めるとともに、地元市町村と連携して被害を最小限に抑えるための対策を進めることとしております。

(4) 公共施設の長寿命化計画

本県は国県道延長約3千km、橋梁約2千橋を管理しており、今後、老朽化等による維持管理費の急増が予想されております。

このため、本県では、平成18年に「宮崎県アセットマネジメント導入検討委員会」を設置し、橋梁における将来の維持管理費の試算を行ったうえで、点検手法の確立や、維持修繕計画の策定に取り組んでおりますが、これにより、計画的な補修を行い、安全で安心な道路を提供するとともに、各橋

梁の延命や、維持管理費の抑制の効果が期待されます。

なお、橋梁以外の道路施設や河川・港湾施設についても計画的で効率的な維持管理を検討していくこととしております。

4. おわりに

本県では、平成23年に「みやざき元気プロジェクト」を立ち上げ、口蹄疫等で疲弊した県内の経済活動の活性化や将来を見据えた産業づくりに取り組んでおります。

公共事業においても、設計段階から地元の技術力や資機材が活用できる工法の検討や、地域で産出・製造された資材の活用を推進するなど、いわゆる“地産地消”の意識を持って業務に取り組むよう県の技術職員に対する啓発を行うこととしており、事業に取り組む中で、地域経済の活性化が図られることを期待しているところであります。

最後になりますが、今年は、「古事記編纂1300年」の節目の年にあたり、天孫降臨など「日向神話」の舞台である本県では、「神話のふるさと みやざき温故知新ものがたり」をテーマに、官民が一体となって、各種事業やイベント等を開催することとしております。

是非、この機会に、「神話の国宮崎」にお越しください。

